

**研究者：武田 渉**（所属：新潟大学歯学部 国際交流サークル代表）

## 研究題目：歯学部学生超短期海外派遣プログラムの推進

### 目的：

学生主体のサークル活動の一環として国際および地域口腔保健医療に貢献することが目的である。さらに将来の海外留学へのモチベーションを高め、学生一人一人の意識が海外へと向くきっかけを作ること、コミュニケーション能力を向上させることも期待できる。これまでの実績から、歯科先進国とされる北欧や北米、発展途上国であるアジア諸国など異なる歯科医療・歯科医学の実際を体験・認識することによって、国際医療貢献の重要性に対する意識や学習意欲を向上させるという点で、絶大な効果がある。

### 対象および方法：

対象…新潟大学歯学部学部生（歯学科1～6年、口腔福祉学科1～4年）

事業活動形式…北米・北欧・アジア諸国の協定締結校歯学部への2～3週間程度の派遣による  
現地歯科事情見学と医療活動参加

滞在期間…2017年8月、2018年2、3月の2～3週間

滞在国内…スウェーデン、アメリカ合衆国、カナダ、ベトナム、タイ、インドネシア、台湾、ブラジル、オーストラリア

現地のカウンターパート：各大学歯学部国際交流担当教員および学生組織

### 成果：

今年度は北欧（スウェーデン）が1大学・北米（アメリカ合衆国・カナダ）の2大学に加えて新たにオーストラリアで1大学、ブラジル1大学が追加となり、また東南アジア各地（タイ・インドネシア・台湾・ベトナム）5大学の歯学部それぞれ2～6名ずつ派遣した。参加者は歯学科、口腔生命福祉学科の学生であり、それぞれの立場で各地の歯科医療の実態を学ぶことができた。また現地プログラムにおいて、医療過疎地における歯科医療提供活動への参加、現地歯学部の教育プログラムへの参加、現地歯学部学生との交流などの経験を通して国際医療貢献の重要性に対する意識が芽生えた。また、直接的に異文化を経験することで人間的にも成長し、現地の歯科治療の現状やそれに対してどのような対策が考えられるのかなど、それぞれが自主的に課題を見つけ、帰国後の報告会にて様々な意見交換が見られた。参加学生は短期留学後も現地学生とSNS等によって連絡を取り、英語でのコミュニケーション能力が向上している。また本学に來ている多数の交換留学生に対しても、本プログラムによる支援を受けて派遣された学生を中心に、積極的な姿勢で留学生の日々の生活のサポートしており、本支援の一部をこのような活動に充てることもできた。

## 考 察：

短期留学で得られる成果は、座学だけでは学ぶことができない、生きた情報の収集と実際のコミュニケーションである。その経験は将来の歯科界を担うために必要不可欠な国際化に対応する教育プログラムにおいて最も重要な位置を占めている。本学部では、大学院学生に対して文部科学省やJSPSの事業による海外エクスターンシッププログラムの提供や若手研究者の計画的かつ組織的な海外派遣を行っている。卒前の歯学部学生に対するこのようなプログラムは、モチベーション向上と北欧・北米やアジアの歯科医療に目を向けるための重要な出発点となっており、卒後の国際化対応教育プログラムに繋がる非常に重要な事業である。

## <タイ・PSU>

日本との歯科エックス線撮影の違いを知る機会となったようです。また、自分たちの興味関心のある科について見学させて頂けたようです。



## <インドネシア・ガジャマダ大学>

インドネシアでは一般の方の歯科に関する知識が少なく、このような地域歯科保健指導が行われており、参加している様子です。また、独自の薬草を使ったケアの講義も目新しいものとなったようです。





### <タイ・コンケン大学>

現地ではタイだけでなく他国の学生とも交流があり、よい文化体験だけでなく、互いの国の歯科医療事情を知るよい機会となったようです。



### <タイ・タマサート大学>

学部生たちが日常的に行われている英語でのディスカッションを行う PBL に参加させて頂いた時の様子。



### <タイ・チェンマイ大学>

アジアでは小児のう蝕が非常に多いことから保健指導が重要となります。こちらは現地の子どもへの歯磨き指導に参加した際の集合写真のようです。



### <スウェーデン・マルメ大学>

講義はなく、PBLを通して学び、一年生から始まる実習など、日本とは全く異なる学習スタイルに驚いたようです。



### <台湾・陽明大学>

陽明大学歯学部長と共に改装したばかりの陽明大学の附属病院において多くの診療科で間近で見学させて頂きました。



### <オーストラリア・チャールズスタート大学>

充実した学習環境、独自の学習システムに驚いたようです。文化交流だけでなく学生との交流では、日本との相違点を知ることが出来たようです。



### ＜ブラジル・ノバファピ大学＞

主に3年間行われる臨床実習における日本との違いに驚いたようです。大学は学年制ではなく、セメスター制であることが一番の違いのようです。



### ＜アメリカ・ペンシルバニア大学＞

個人の興味関心のある診療科を見学し、その日ごとにレポートを提出するなど英語の高いレベル、そして知識を求められるまたとない機会を得たようです。



### ＜新潟大学歯学部国際交流サークルの活動風景＞

スウェーデンのマルメ大学、ベトナムのホーチミン大学、タイ・タマサート大学の学生が新潟大学に交換留学生として訪問された時の様子。

歓迎パーティーの開催や留学生のサポートを国際交流サークルが自主的に行っています。

